



# メロス通信 不定期便

## 第4回ケアの倫理カンファレンス

～必要な医療を受けることができない人たちの命を私たちはどうやって守ればよいのでしょうか～

2月6日のケアの倫理カンファレンスでは外来高橋看護師から糖尿病療養指導士としての痛切な思いが届けられました。

「払えないお金が増えるだけ」と受診をためらったT氏に「支払いのことは気にしないで」と声をかけたが私たちが恐れていた最悪の結果となってしまった。ほかにどんな手立てがあったのか。

生活保護受給者は医療については安心して必要な医療を受けることができる。無料低額診療対象者も期限はあるがその期間は安心して医療が受けられる。どちらも対象とならなかった今回の事例は「支払い保留」という形で命を守ろうとしたが日常を守れなかった。医療や介護の自己負担額が引き上げられ必要な医療を受けられない人が増える中で私たちはどうやって命を守ればよいのだろう。

この問いに次のような意見が出されました。

- ・自分のことは主張しても相手のことは受け入れない、そんな患者に共感し受容していくことが大切。外来看護師はそれができていた。
- ・「最悪の結果になった」わけではない。セカンドステージに移行しただけ。何に対しても「最悪の結果」という言葉はない。私たちが初めに見る患者も全部が私たちに委ねられたセカンドステージの患者なのだから。

・患者が生活保護をネガティブに捉えることがないように「生活保護は権利である」と、私たちの胸に刻んでおかなければならない。

そしてカンファレンスのアンケートには次のような意見が寄せられました。

- ・患者を生活者として全体像、事実をつかむことの重要性を再認識。
- ・社会保障制度の充実に向けて政治への興味を持つ、活動の場は臨床の現場だけではない。
- ・ねばり強く終わりのみえない患者に関わり続ける高橋Nsに尊敬の念を持ちます。また、それに伴走する多職種があることに健文会の強みと思いました。
- ・病院と情報を共有する事で、背景がより深くわかり、薬局としても対応体制も整えると思いました。交付時の患者さまとの会話でケアする体制をつくらないといけないと思いました。

発表を終えた高橋看護師が心を込めて書かれたアンケートを何度も読みなおし「宝物」だという言葉に胸が熱くなりました。みんながひとつになれた時間でした。参加者のみなさま有難うございました。

次回は5月1日（金）、4階病棟から事例を提供していただきます。

## 地域福祉室メロス、福祉系学生実習 始動!!

地域福祉室では福祉系大学より社会福祉士受験資格のための法定実習を受け入れることになりました。記念すべき第一号は周南公立大学 福祉情報学部 3年 内田伶音 さんです。短い期間でしたがアウトリーチをはじめ地域ケア会議の参加、ギャロスで「自己覚知」を大学の先輩と共に考え、メロスふれんどの会では当事者の思いに傾聴しました。内田さんの持ち前の笑顔と誠実に学ぶ姿勢は職員や患者さんを元気にしていました。何よりも命に向きあう眼差しが素晴らしかったです。これからの成長が楽しみな内田さん、実習ご苦労様でした。

### 内田 伶音さんのご挨拶

約一週間、地域福祉室メロスでソーシャルワーク実習をさせていただきました。

実習中は実際の支援に同行させていただき、メロスの職員の方がクライアントの方に関わる場面を見学しました。クライアントの方への訪問では、目の前の情報だけでなく、ご本人様の過去の出来事や生い立ちにも目を向けていらっしゃいました。ご本人様の気持ちを理解しようとされる姿が印象に残っています。表面的ではない愛のある繋がりが、地域福祉室メロスには存在しているように思えました。

私もこれからどこに就職しても、出会った一人ひとりの人生に寄り添える支援者になりたいです。

実習の間で、支援者として、そして人として成長させていただきました。本当にありがとうございました。



Sさんの語りに必死に耳を傾ける内田さん。メロスふれんどの会のみなさんからは「貴女ならできる!」というエールが

内田さんは愛のある繋がりが健文会全体に広がっていることを感じたそうです。地域福祉室では後進を育てウェルビーイング（真の健康）のために社会変革を目指す仲間を増やすために、民医連で培った「命の尊厳への思い」を福祉系学生に伝えていきます。みなさまの力もお借りしたいと思っています。